

第7回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成20年2月20日(水) 15:00~17:20
2. 場所 虎ノ門パストラルホテル 6階 アジュール
3. 議題

4. 出席者

委員:浦野委員長、指宿委員、南齋委員、山本氏(柴田委員代理)、高戸委員、

洞雞委員、久米委員、野中委員、保坂委員、山口委員、油井委員

オブザーバー:海野氏(日本クリーニング環境保全センター)

環境省:岩田大気環境課長、米田大気環境課長補佐

事務局:社団法人 環境情報科学センター

5. 議事内容

- 事務局より、発生源品目別の排出量の精度向上に係る検討結果について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
 - ・ 排出量の不確実性が数万トンのレベルの問題点として挙げられているもののなかに、当面对応しないとしているものがあるが、今年度中に解決できないにしても、今後解決すべき問題である。
 - ・ 上記の問題点うち、ガソリンスタンドにおける蒸気回収装置の設置率が不明である点については、PRTRの届出データ等を活用して推計の可能性を模索すべきである。
 - ・ 溶剤の発生源品目「342 その他(不明分を含む)」(溶剤の用途「不明」)は10万トンあり、大きな問題である。排出量が重複している可能性と、用途が不明なため実態が確認できないことが主な問題である。商社への調査や工業用洗浄剤のアンケートを含め、優先的に取り組むべきであり、今年度中に解決への道筋をつけるべきである。
- 事務局より、業種別排出量等の内訳に係る検討結果について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
 - ・ 業種別のVOC排出量の推計は地域別排出量を推計するために重要であり、精度を高める必要がある。
 - ・ キシレンはエチルベンゼンを多量に含む場合があり、両者を区別せずに「キシレン」として届出される可能性があるため、キシレンとエチルベンゼンを合わせて、VOC排出インベントリとPRTRの届出データを比較してみるとよい。
- 事務局より、モニタリングデータに基づく過不足の検討結果について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
 - ・ VOCインベントリ排出量推計値と比較するため、東京都のモニタリングデータが使われたが、

今後はモニタリングデータを追加して検証を進めるとよい。

○ 事務局より、法令取扱分類別排出量調査結果について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 法令取扱分類ごとの排出割合について、化学業界は大企業と中小事業では状況が異なるため区別して扱う必要があり、それぞれの法令取扱分類別排出量のおおよその割合だけでも推計すべきである。
- ・ 規制対象施設については、大防法に基づく都道府県知事への届出データも収集し、活用すべきである。

<配付資料>

第7回 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 配席表

資料1: 第6回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨(案)

資料2: 発生源品目別の排出量の精度向上に係る検討結果(案)

資料3: 業種別排出量等の内訳に係る検討結果(案)

資料4: モニタリングデータに基づく過不足の検討結果

資料5: 法令取扱分類別 VOC 排出量の調査結果(案)

参考資料1: 法令取扱分類別排出量に係るアンケート調査票等

参考資料2: VOC 排出インベントリの対象外発生源に係る排出量(参考値)

以上